

平成 28 年度 新潟県高等学校野球連盟技術向上研修報告書

平成 28 年 8 月 6 日～8 月 8 日

北支部 伊藤 政司

南支部 青山 三行



この度は、第 98 回全国高等学校野球選手権大会に於いて審判技術研修に参加させていただき誠にありがとうございました。

国民的行事である高校野球選手権大会の聖地、甲子園球場でご活躍されている審判委員の皆様の技術を拝見し、審判委員としての精神力、選手に対する優しさ、大会運営等、研修して参りました。

つきましては、研修内容を纏めましたので下記のとおり報告を致します。

1. 研修内容

- 研修期間 平成 28 年 8 月 6 日 (土) ~8 月 8 日(月) 3 日間
- 研修場所 阪神甲子園球場
- 研修目的 第 98 回全国高等学校野球選手権大会に於ける審判技術研修
- 参加者 伊 藤 政 司 (北支部) 青 山 三 行 (南支部)
- 研修日程

◎8 月 6 日本県より阪神甲子園へ各自移動

◎8 月 7 日 (日) 大会第一日目 一回戦

- ・開会式
- ・第一試合 佐久長聖 (長野) VS 鳴 門 (徳島)
- ・第二試合 出 雲 (島根) VS 智弁学園 (奈良)
- ・第三試合 九国大付 (福岡) VS 盛岡大付 (岩手)

◎8 月 8 日 (月) 大会第二日目 一回戦

- ・第一試合 いなべ総合 (三重) VS 鶴岡東 (山形)
- ・第二試合 中 京 (岐阜) VS 大 分 (大分)
- ・第三試合 高川学園 (山口) VS 履正社 (大阪)
- ・第四試合 東 邦 (愛知) VS 北 陸 (福井)

※ 以上合計七試合の研修ですが大会二日目第四試合は時間の都合上
四回表までとなりました。

2. 行動と感想

◎初日 8 月 6 日 (土)

- ・伊藤政司

新潟空港発 → 大阪伊丹空港着 → リムジンバスにて甲子園球場 13:30 着

- ・青山三行

上越妙高発 → 大阪駅 → 阪神電車甲子園駅 13:50 着

- ・赤井幹事、日野審判副委員長両氏にご挨拶をする予定でしたが、あいにく連絡が取れず断念。
- ・2 名合流後、今後どのような研修をするか打合せ球場周辺を見学。
- ・大会前日のこの午後の時間にも拘らずチケット売り場前は既に 50 名近い順番待ちの列と、かなりの長さで人数と名前が書いてあるダンボールとブルーシートが敷かれ高校野球の人気ぶりが伺えました。又、大量の高校野球グッズを取扱う業者、食品を搬入する業者等も慌ただしく準備をしていて「さあ、始まるぞ」という雰囲気を感じてきました。
- ・本日は、この様な状況を確認して 16:00 甲子園球場から宿泊先のアパホテル御堂筋へ電車で移動。
- ・ホテルロビーにて今回の研修課題を話し合い。
 1. 2 時間を超えそうな試合の場合、如何にテンポアップを計りゲーム作りをしているか。
 2. 選手の気配りや声かけ等はどうしているか。
 3. 毎試合の審判員の立位置はどうか。

以上の点を重点的に研修するよう心掛け、明日に備えました

◎大会第1日目 8月7日（日）開会式

- 8:10 甲子園球場到着
- 開会式を見学する為大会役員席へ行こうとしましたが満席。他席も満席状態なので立見にて研修を開始しました。
- 選手、アナウンス、プラスバンドの高校生主役の開会式は、気温30℃雲一つも無い青空の下で盛大に行われ、堂々と入場行進する選手、その選手に対して観衆の暖かい拍手、プラスバンドとコーラスの一体感、透き通った声のアナウンス、球場全てが一つになり開会式を盛り上げている感じでした。
- 開会式終了後、第一試合開始前に竹田専務理事と同行し赤井幹事にご挨拶。赤井幹事より「本日の第二試合と第三試合のトスの研修はOK、但し試合後のミーティングはNGにして」とのこと。後ほど控室前で待ち合せすることになりました。



◎大会第1日目 8月7日（日）第一試合

開始時気温 34℃ 観衆 43000人

佐久長聖（長野） VS 鳴門（徳島）

開始 10:32 終了 12:43

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐久長聖 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 鳴門 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 3 |

球審 - 野口 墨審 1 墨 - 田中 2 墨 - 金丸 3 墨 - 山口

| | |
|------|---------|
| 3回終了 | 54分 |
| 5回終了 | 1時間 19分 |
| 7回終了 | 1時間 53分 |
| 試合時間 | 2時間 11分 |



本日の第一試合はここから研修します。日照りが強く暑いですが（試合も熱いです）二人でがんばります。

(最初に、《》内のコメントは、講師がいて解説したことではありませんので憶測も入ります。)

※この試合を研修して

●球審

・ ゲットセットのタイミング

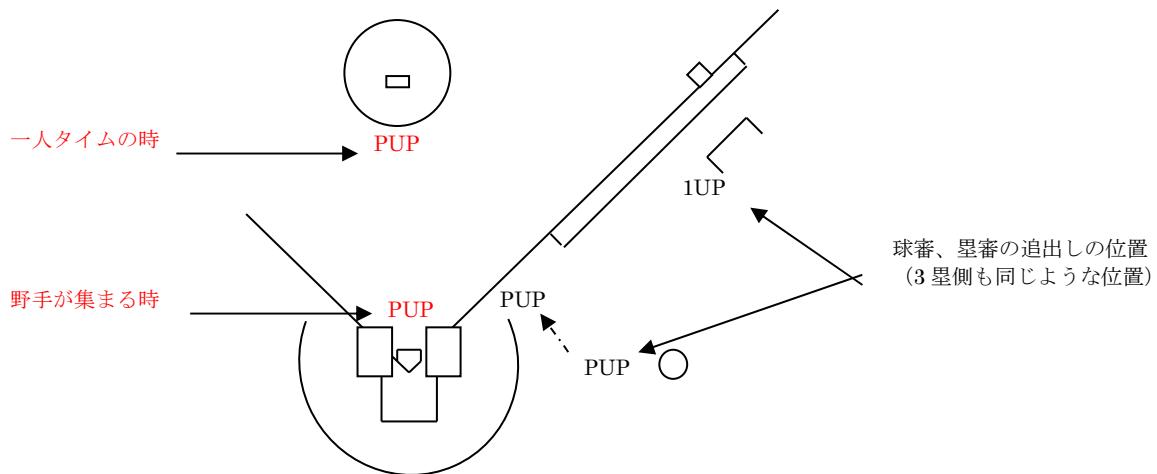
ランナー無 → 動作が始まり次第セット。

ランナー有 → セットポジションに入ったらセット開始、結構早めのタイミングで結構低い姿勢。

・ 守備タイム

捕手の一人タイムではマウンド近くへ、野手が集まるタイムではあまりプレッシャーを掛けないようにしているのかホームプレート前 2~3m の位置。

あちこち
タイム回数の確認も彼方此方動かずその場で確認。(図中心より左側)



・ 捕手の防具装着

所定の位置で変わりはありませんでした。

●球審及び墨審

・ ベンチからの追い出し

球審・墨審ともベンチには近づかず、墨審が積極的に声をかけ(上図中心より右側)追出し、野手全員ベンチから出ると同時に所定の位置へ駆け足戻り又、球審は投球練習が始まると所定の位置に移動しながら打者が近くに来ているか確認。打者が遅い場合は、ジェスチャー(駆け足)で早く来るよう促している。



・給水

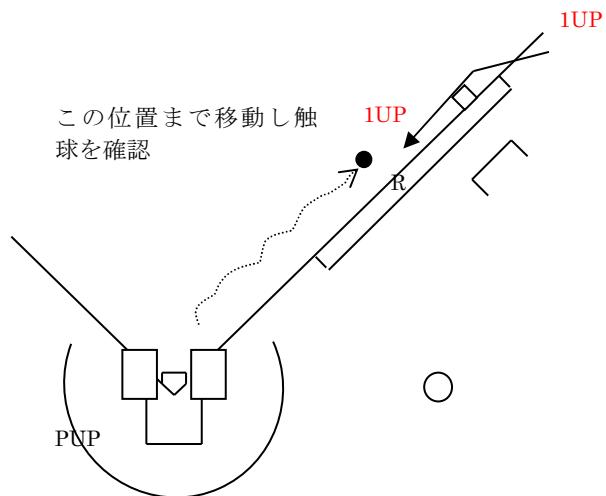
4氏が給水する3回、7回でペットボトルを持ったボールボーイ2名が2方向に別れて各審判委員に渡し回収。

《審判委員を動かさない配慮》

尚、球審はほぼ毎回出入口付近へ行き給水。

・球審と塁審の連携

走者 2・3 塁のケース、打者一塁線へボテボテのゴロで、球審は打球判定、一塁塁審は本一塁間の中央近くまで移動し触球を確認し判定。《塁間でのダッグプレイに即反応した動き。最初の一歩が早い。》



・本塁打の判定 (3 塁塁審)

レフトへの本塁打を見極めた後は第一試合でもあるしフェンス際だった為か右腕を大きく回しながらレフトの野手の定位置近くまで行きジェスチャー。《はっきり分かりやすい》

・トスの同席

第二試合と第三試合の攻守の同席を行いました。

詳しくは、第三試合の攻守同席で説明。

《気温 34℃以上で湿度も高く蒸し暑い状況の中で選手に対する心配り、テンポを上げるための選手への指導、開始から終了まで定位置に戻る時は小走り、時には駆け足。顔色一つ変えずゲームを進行する姿は流石本場の審判委員と感じました。》

◎大会第1日目 8月7日（日）第二試合

開始時気温 35.5℃ 観衆 43000人

出雲（島根） VS 智弁学園（奈良）

開始 13:20 終了 15:14

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 智弁学園 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 6 |
| 島根 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

| | |
|------|--------|
| 3回終了 | 40分 |
| 5回終了 | 1時間08分 |
| 7回終了 | 1時間34分 |
| 試合時間 | 1時間54分 |

球審 - 美野

塁審

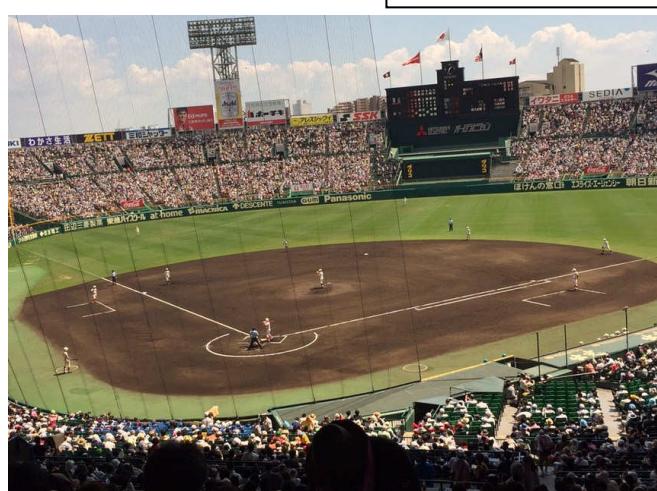
1塁 - 大槻

2塁 - 田口

3塁 - 小山

第二試合は全体が見渡せる、此処から研修します。

浜風があり気持ちが良いです。



※この試合を研修して（第一試合と重複しない感想を記載）

●試合開始前の用具点検

一塁側 → 試合終了後の墨審 1 名と次試合の墨審 2 名計 3 名

三塁側 → 試合終了後の墨審 2 名と次試合の墨審 2 名計 4 名

●球審

・テンポアップ

投球練習時には、バッターがホーム近くにいるか、ネクストバッターがいるか常に確認。

試合中盤に打者とネクストがベンチからなかなか出てこず球審が近くまで迎えに行く。

《気配りを含めたテンポアップ?》

バックネット方向への早いファウルボールはマスクを外さず、すぐさま投手に返球。又、1・3 墓方向のフライ系のファウルボールの返球は、その方向に移動しながらマスクを外すと同時にボールケースに手を入れ投手に返球。《テンポが良いと感じました。》

・4 氏審判委員のコメント

4 氏のサイン送りは、インターバル時にタイミングよく素早く出していましたアンサーについては、殆ど返していないように見えます。《返す場合は、帽子鍔を触っていたようです。》

・第三試合のトスに同席

配置は例年同様省略します。初めから終わりまで 6 分程の短時間で行われました。終了後には赤井幹事より助言をいただきました。その模様を報告します。

（文面左端の本は本部、球は球審、両は両校キャプテン、先は部長先生、盛は盛岡キャプテン、九は九国キャプテンで表記しました。）

本・「改めてこんにちは両チーム甲子園出場おめでとうございます。」

両・「ありがとうございます。」

本・「それでは、初日第三試合攻守決定を行いたいと思います。本日球審の古川さんです。古川さんの方から諸注意お願いします。」

球・「はい、分かりました。じゃあまず攻守決定しますんで最初はグーじゃんけんばん、それでおあいこやったら又最初からやります。それでは、向かい合って一歩下がって握手。」

両・「お願いします。」

球・「最初はグーじゃんけん」

九・「後攻で」

球・「盛岡大付属先攻です。」《先攻チームを先に言うようです。》

本・「盛岡が先攻。」

球・「はい。じゃ再度握手お願いします。」

両・両キャプテン再握手する

球・「本日球審の古川です。ここの球場は皆さん及び全国の高校野球に携わる仲間のホームグランドです。その中でこれは学校の課外授業。わかりますか？・課外授業？ で、これから 2 時間くらい思う存分やってくれてええけどその中で高校の課外授業だとゆうのを頭の中に置いとくと自分たちは何をやらなきやいけないかと言うのがみえてくる。で、一点だけ。今いろいろなこと言ったけど覚えた？…(九国キャプテンに)緊張してる？」

九・「いえ、してません」(室内全員・笑)

球・「君は？」

盛・「します」

球・「そーやろ」(笑)・「で、一つだけやから守れるから。君たちキャプテンだけじゃなく全員やから。一つだけ言う。そのかわり試合で守ってくれんかったら、約束違うやないかって言う。いい？ サインはバッターボックスで必ず見る。どやできるだろ、絶対できるだろ」

両・「はい、できます。」

球・「もし、バッターボックスの中でサイン見てピッチャーがセットポジションに入るとかしたら僕が止める。
安心してボックスの中でサインを見てください。絶対投げさせないから。OK？それは、僕も約束守る
から。だから試合前、全員に伝えてください。いい、OK？」

両・「はい」

球・「先生方すいません。この辺の気候は地元と違ってぜんぜん違うと思います。今日も暑いです。熱中
症に十分気をつけてください。春の選抜でも熱中症になる選手もいますんで、夏は要注意してください。
監督さんは試合を見てはりますんで、先生方選手の管理を是非お願いたします。後は、攻守交
替のとき特に十分みてやってください。私の方からは以上です。頑張りましょう。」

両・先「よろしくお願ひします。」

本・「ありがとうございました。今聞いていただいたとおりの熱中症。水分補給十分、キャプテン率先して
やってな。」

両・「はい」

本・「それから、ノックの打球がスタンドに多々入る時があるので十分注意してお願いしたいと思います。
今日も満員なのでよろしくお願ひします。後は、挨拶ですが…やつてもらおうか？」

球・「それじゃ並んで、その後は、私が始めます、礼で言うたら一発であわせてほしい。それで、終わると
ときは、終わりますと手を挙げながらって言います。そしたら礼をして下さい一発であわせる。タイ
ミングはずらさぬように、それだけです。」

本・「最後、一番大事なこと、それはフェアプレイ。みんなの気持ち、終わったときやっぱり良かったと思え
るような素晴らしい気持ちで、良い試合を期待しています。先生方、何かありましたらベンチ裏に居
りますんで何なりと申してください。それでは両校(先生方も)向かい合って握手を」

両・先・握手をしながら「お願ひします」

本・「では攻守を終わります。頑張ってください。」以上

《終始和やかで、選手(キャプテン)の緊張を解くようなトスでした。

又、赤井幹事より攻守終了後同室で「結構短いやろ、ああしろ、こうしろという指導をしても緊
張してるからこの場は聞いちやおるが帰ってからチームに伝わらん。大事なことは、わかりやす
くウイークポイントだけ伝えてキャプテンがいかにチームを引っ張っていけるかを指導するの
が一番ええんや」と言わされていました。

これから試合をする選手にはリラックスを。そして今までの力を十分発揮できるよう気配り心配
りを十分配慮した攻守でした。勉強になりました。》

◎大会第1日目 8月7日(日) 第三試合 開始時気温 35°C 観衆 43000人

九国大付(福岡) VS 盛岡大付(岩手)

開始 15:55 終了 18:28

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盛岡大付 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| 九国大付 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 |

球審 - 古川 墓審 1 墓 - 小林 2 墓 - 松本 3 墓 - 鈴木

| | |
|------|---------|
| 3回終了 | 52分 |
| 5回終了 | 1時間 19分 |
| 7回終了 | 1時間 42分 |
| 試合時間 | 2時間 33分 |

※この試合を研修して（第一試合と重複しない感想を記載）

●試合開始前の用具点検

一塁側 → 試合終了後の球審・墨審 2 名と次試合の墨審 2 名計 4 名
三塁側 → 試合終了後の墨審 2 名と次試合の墨審 2 名計 4 名
《用具点検は基本 8 名体制のようです。》

●球審

・イニングのトップバッターがベンチから歩いてボックスへ

「走って、走って」と注意。《声かけでは無く、完全な注意でした》

・クロスプレー

我々が習う位置取りとほぼ同じ。《送球される方向を予測してか、アジャストが素早い。》

・攻守交替直後の打者で投手の場合、バッターボックスに入る前に深呼吸と素振り 2 回程させていました。《気配り優しさを感じました。》

・ベンチより伝令

空気がわかるのかタイムをかけるタイミングが良い。《時間短縮を考えながらゲームを作る集中力は勉強になります。》

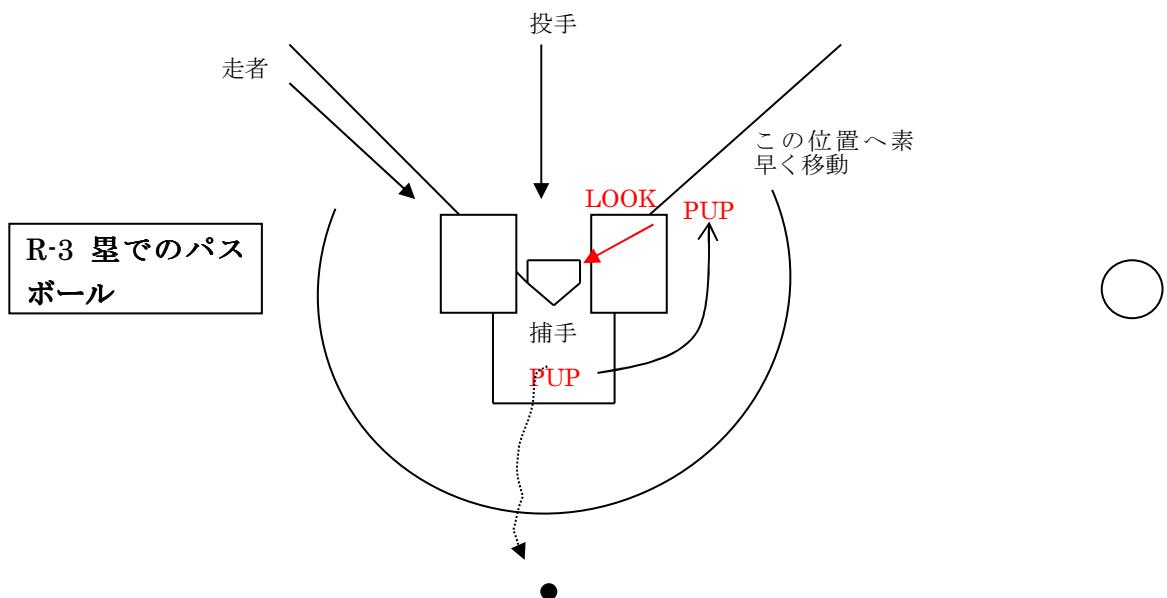
・R-3 塁でのパスボール

ダートサークルと左バッターボックスの間に即移動しプレーを見ている。（下図参照）

《一番良く見える位置取りとして考慮》

・構え

どっしりとした構え、「しっかりと見てやるぞ」と言わんばかり、最後までぶれない判断。



●墨審

・ノーランナーでベンチ前の中間くらいに高く上がったファウルボールは墨審が野手正面まで切込み判定。

《最初の一歩が早い。球審とアイコンタクトをしながら切り込んでいました。》

《一日目の全試合終了が 18:30 頃でこの後の審判委員のミーティングに参加予定でしたが時間が遅くなつた為中止。赤井幹事、日野審判副委員長にご挨拶を済ませ宿泊先へ移動しました。》

◎大会第2日目 8月8日(月) 第一試合 開始時気温 29°C 観衆 17000人

いなべ総合(三重) VS 鶴岡東(山形)

開始 8:00 終了 10:03

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鶴岡東 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| いなべ総合 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | × | 5 |

球審 - 堅田 墓審 1塁 - 宅間 2塁 - 福原 3塁 - 高野



| | |
|------|---------|
| 3回終了 | 50分 |
| 5回終了 | 1時間 13分 |
| 7回終了 | 1時間 40分 |
| 試合時間 | 2時間 03分 |

本日の第一試合はここから研修します。気温がどんどん上がってきました暑いです。

※この試合を研修して(前日の第一試合と重複しない感想を記載)

●球審

・伝令を待つ位置

代打が出た後、攻守交替時の伝令を待つ位置としてベンチ近くへは行かず、ダートサークルとネクストサークルの真中辺りで待つようです。

●球審及び墓審

・追出し

野手の出方が早いと墓審は追出しに行きません。行こうとしてダッシュで選手が出てきた場合、直ぐに所定の位置に戻っていました。

《遅い場合は、球審より先に声かけし追出しをしていました。》

・打球判定

外野手と内野手の間に落ちるポテンヒットと外野手へのイージーフライは、打球を追うがジェスチャーはなし。《我々は、ザツキキャッチ・ノーキャッチを実施。後ほど赤井幹事に質問しました》

※この試合は、本県の福原審判委員が2塁墓審です。体も大きな福原さんは緊張も無さそうで声(選手への声かけも含め)も出ていましたし、メリハリがあり確りしたジェスチャーでした。

◎大会第2日目 8月8日(月) 第二試合 開始時気温 33°C 観衆 27000人

中京(岐阜) VS 大分(大分)

開始 10:38 終了 13:01

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 中京 | 1 | 0 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 12 |
| 大分 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |

球審 - 西貝 墓審 1塁 - 元雄 2塁 - 中尾 3塁 - 吉岡

| | |
|------|---------|
| 3回終了 | 45分 |
| 5回終了 | 1時間 20分 |
| 7回終了 | 1時間 47分 |
| 試合時間 | 2時間 23分 |

※この試合を研修して（第一試合と重複しない感想を記載）

●球審及び墨審

・6回の表投球練習前に球審が捕手に何かを言う。

試合時間が80分を超えたためかボール回しはなし。

《やはり本場の審判委員も試合時間を気にする？》

・選手交替

伝令が球審に選手交替（2人）を告げた後、球審は通告する場所へ行き交替を告げるだけ。

オーダー表のチェックはなし。

《甲子園ともなると、おそらく通告を受けた側は経験が豊富で時間を考慮してのことか球審に余分な負担をかけないよう配慮しているのか右手を挙げて了解のサイン。》

◎大会第2日目 8月8日（月）第三試合 開始時気温 36°C 観衆 42000人

高川学園（山口） VS 履正社（大阪）

開始 13:35 終了 15:20

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高川学園 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 履正社 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | × | 5 |

球審 - 岸 墨審 1星 - 金丸 2星 - 藤本 3星 - 倉谷

| | |
|------|--------|
| 3回終了 | 37分 |
| 5回終了 | 1時間02分 |
| 7回終了 | 1時間28分 |
| 試合時間 | 1時間45分 |

※この試合を研修して（第一試合と重複しない感想を記載）

●球審

・ヒットバイピッチ

ヒットバイピッチで打者が一塁へ到達しても体（頭、胸部以外）に当たった場所により直ぐにはプレイをかけず、打者が回復（一星墨審のOKサインが出るまで）するまで待つ。

《ベストの状態でプレーをしてもらう配慮に思いました。》

●球審及び墨審

・打球判定

試合前ミーティングで決めたことなのか 1・3 墓線の早いゴロ、ボテボテのゴロに対する打球判定は、殆ど墨審が判定。

●墨審

・外野フライで野手がフェンスに激突

このプレーでも安全を考慮してか、プレーが落ちついてからすぐさま担当墨審が近くまで行き、声をかけながら野手の様子を確認。

《審判委員は、判定しているだけではなく選手の安全も考慮しなくてはいけないと、再度認識しました。又、この試合は1時間45分とテンポの早い試合で、ゲーム作りはやはり4氏が息を合わせ、試合に集中することが大事とひしひしと感じました。》

◎大会第2日目 8月8日（月）第四試合 開始時気温 37°C 観衆 26000人

東邦（愛知） VS 北陸（福井）

開始 15:56 終了

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|-----|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----|
| 北 陸 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 2 | 2 | 9 |
| 東 邦 | 0 | 3 | 1 | 12 | 0 | 1 | 2 | 0 | × | 19 |

球審 - 永井 墨審 1星 - 土井 2星 - 高松 3星 - 高田

| |
|------|
| 3回終了 |
| 5回終了 |
| 7回終了 |
| 試合時間 |

- この試合については、時間が無く最後までいる事ができませんでしたので省略します。
尚、日野審判副委員長が大会役員席おられましたのでその場で挨拶を済ませ、球場内の審判委員室の赤井幹事に挨拶をしました。
そして一つだけ質問・・イージーフライは何故コールしないのか？
回答は、「誰が見ても捕球している場合は、3 アウトになるまでやらなくても良いことは言つてゐるし、絶対にやるなではない。但し、3 アウト目は攻守交替のけじめとして必ずジェスチャーするように言つてゐる。それは、イージーだから」ということでした。又、会話の中で、本日の試合の 2 墨墨審全員は、手伝いに来てくれた派遣審判。「皆 2 つ 3 つ次を予想をしながら動いてゐる。だから位置取りも良いところにおる。たいしたものや、後ミーティングでちゃんと褒めてやつとるから」とのことでした
以上お別れの挨拶をし 17：45 に聖地甲子園球場を後にしました。

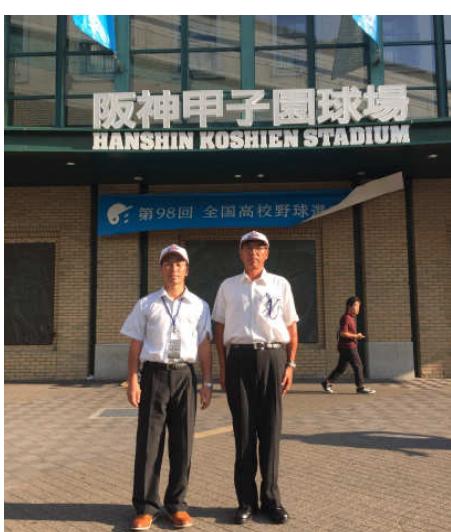
所 感

北支部 伊藤 政司

今回の新潟県高等学校野球連盟技術向上研修の機会を与えて頂きありがとうございました。私自身 35 年振りの甲子園という事でワクワクしていました。甲子園でなければ味わえないアルプス席からの選手の応援、選手に対する観衆の歓声やため息をきいていると、スタンドではなくもう一度グランドに立ちたいと思いました。甲子園レギュラー審判員、全国各地区の派遣審判員の動きや正確なアンパイアリングを目の当たりにし、今までの自分自身のアンパイアリングを振り返ると共に、今回の甲子園審判技術研修で学んだ事を他の審判員と共有し、今後の審判技術の向上に結び付けたいと思います。

南支部 青山 三行

選抜大会では観客として甲子園へ行った過去がありますが、今回は審判技術研修員としての参加で夏は初めてでした。連日猛暑の中、高校野球ファンで埋め尽されたスタンドで本場の皆さんには目立つことなく淡々と審判をされ、技術はもちろん試合を進めるに当たりプレー中は決して態度を変えない、歩かない、定位置に戻るときは小走り、時には駆け足、そして選手に対する的確な説明。又、観衆の応援で消されたコールの声は、大きなメリハリのあるジェスチャーでカバー、全てが手本で今一度原点に戻り再度勉強だと感じました。2 日間の研修ではありましたが習得した技術を今後の試合に活かすよう努力して行きたいと思います。



最後に、この機会を与えていただいた新潟県高等学校野球連盟並びに審判部会長を始め南北全ての審判委員の皆様にお礼を申し上げ報告と致します。ありがとうございました。